

高尾山報

令和5年10月号

八王子・南大沢交通安全協会主催

交通安全祈願火渡り祭厳修

九月十六日 於・自動車祈禱殿大広場



交通安全を祈って火を渡る



火を渡りお加持を授かる



八王子交通安全協会の小杉会長(右)
南大沢交通安全協会の田中会長



人々の願いが込められた
撫木を火中に投ずる



両交通安全協会の皆様が見守る中、柴燈大護摩供及び火生三昧火渡りが厳修された

八王子・南大沢交通安全協会主催
交通安全祈願火渡り祭
厳修
於・高尾山自動車祈祷殿大広場(九月十六日)



交差点での安全を祈るお祓い



高尾交通安全協会の皆様が
佐藤貫首と共に交通安全を祈願された



高尾交通安全協会の田中会長



交通安全祈願碑前での法要



事故に遭いませぬように…



高尾交通少年団による演奏

高尾交通安全協会主催
交通安全祈願火のまつり
厳修
於・高尾山自動車祈祷殿大広場(九月三日)

高尾山年代記

歴代山主の事跡をたどる

明治大学博物館 外山 徹

46

十八世秀神4 薬王院本堂の建立

寛政三年（一八九）六月五日。江戸湯島天神における出開帳が閉帳した。六月一〇日、本尊飯縄大権現と不動明王、山主秀神ら一行は江戸を立、帰山の途に就いた。

麓村々との交流

翌々二日の朝に日野宿（東京都日野市）を立出している。通常の旅程よりは一日多い。高尾山最寄りの小名路宿（現在の甲州街道から旧甲州道中が枝分かれする辺り。数軒の宿屋があった）にて昼食を摂り、地元村役人らの出迎えを受けている。開帳の準備からはじまる地元の人々を交えた一大イベントの締め括りであった。その年には上栲田村の

原という集落の鎮守熊野社の遷宮が予定されていた。二月三日、秀神と弟子の尊常、村内の日光寺、隣村上長房村金南寺、下長房村宝蔵寺の住職も参列して遷宮祭が執行され、同村旧家の日記は「大いに賑いそうろう」と記す。熊野社は村持ちで、薬王院門末による支配ではないにもかかわらず、高尾山主が直々出張つて導師を務めたのは、高尾山自体が近隣諸村の総鎮守的な存在であったことが想起されるし、秀神もまた近隣諸村との関係を重視していたことによると考えられる。

参詣者が見た高尾山

さて、湯島出開帳の効果はいかに。江戸青山在住の文人石永貞は、寛政七年（一七九五）、多摩在任の舅に会いにゆく際、高尾山に立ち寄り、旅の様子を紀行文『武野遊草』に著わしており、この頃の高尾山の様子垣間見られて興味深い。

八王子宿で昼食の後、甲州道中を西へ、小名路の追分を左に進み落合番所を過ぎた右の方に林間の細道を発見する。「この山上げるべき間道のよし也」と進んでみたものの、

「木根を引き、葛蔓を焚き、岩角を伝い」と、道とは名ばかりの急傾斜をよじ登ることになった。落合番所との位置関係からして、金比羅台へ直登する古道を登ったことになる。この道筋は古の表参道とされる尾根筋のルートだった筈だが、この頃は通る人も疎らであったのだろうか。

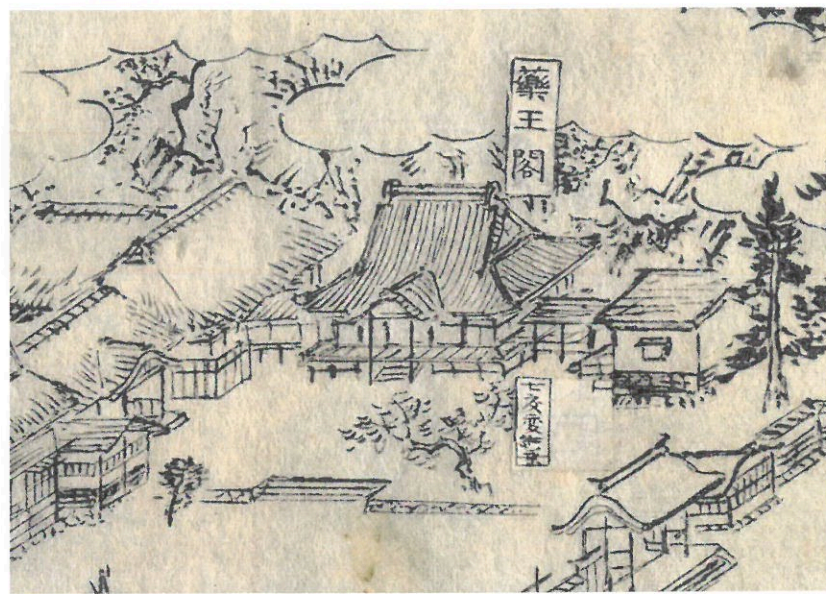
の後も「曲盤の径を攀じ、石根につまずきながら」と、険しい山道をたどる文字通り登山の様相であったが、翌日の帰路は「本路をとりて」とあるので、参道とは別の道筋を登ったようだ。

当時の金比羅台は森林の繁茂が少なく、三六〇度眺望が開けていたよう

「神の広前に至る」とあるので、永貞は飯縄権現社を参拝し、続いて社前の石階を下つて「寺」に至っている。これは現在の大本坊の周辺、当時、薬王院と呼ばれていた堂宇群のことになる。「かかる深山にただ一宇の寺」と感嘆している。往路の道の険しさを考えると意外の感があったのだろう。

奇観」と評される。そこからの参道は「いよいよ窄くますます険して」と、尾根道なので現在の道筋に近いはずだが、舗装された一号路とはかなり趣が異なる印象だ。四、五町（一町は約一〇九メートル）進んで出た平地は草庵があったと言うので、現在の城見台の切り、草庵はかつての塔頭浄土院ということになる。そ

「夜半まではどよみも止まざりけり」という感想は実感がこもる。「皆人は疲れしままに軒ちよう者ごろごろと促せども」という中、永貞は目が冴え眠れなかつ



寛政10年の建立とされる薬王院本堂 『八王子名勝志』から 国立国会図書館デジタルコレクション

たという。寛政二年の絵図からすると参籠者が泊まっていたのは書院の広間であり、明治二年（二八八）の図面からすると、一五畳ないし一八畳の部屋に人々が雑魚寝で泊り込んでいた様子が浮かぶ。

翌朝、永貞は再度飯縄権現社と薬師堂を詣でて帰路に就くが、相模川を望む雨上がりの眺望に感激している。昨日の草庵、つまり浄土院に至ると、住僧から琵琶滝の参詣を勧められるが、永貞は山間の遠路を憚り断念する。下山は「この山にのぼる本路」を降りた。

金比羅台下の屈曲路「七曲坂」を経て、「路のほどもよろしくわたりも広くして甚だ進みやすし」と金比羅直登路との違いが際立つ。途中、杉の枝を折り取つて挿し木にする願掛けの習俗が記されている。根付けば願いが叶うとのこと。降りきったところの鳥居は一之鳥居であり、脇には不動院。弁天の祠を祀る池があり、また、清滝の描写があり、滝の開削のいきさつを刻んだ宝暦五年（一七五五）の碑に言及している。

寛政・文化の諸堂整備

寛政九年正月二五日、上栲田村三組の村役人が高尾山に集められた。振舞を受けたその理由は、飯縄権現社はじめ諸堂社の修築と本堂の建立という、山内整備の一大事業への協力要請であった。四月一九日には上栲田村旧家の日記の主が勧化（募金）に出た者を村内くまなく案内している。働

化の範囲は近隣に止まるものではなかっただろう。翌寛政一〇年の建立とされる薬王院本堂は間口九間（約一六・三メートル）に奥行七間（二・七メートル）と、両翼増築部分を除いた現在の大本堂の建立当初より大きく、当然、山内最大の仏堂となった。本尊大日如来、不動明王、愛染明王を安置し、護摩修法所を設けていた。

文化二年三月一六日。「本社棟上げ」に村役人が呼ばれている。寛政二年の図面にある飯縄権現社拝殿と、現存する拝殿では大きさが異なる。文化二年付の棟札が残ることから、何らかの理由でこの時拝殿が建て替えられていたことがわかる。先の助入足の状況、翌年正月と三月の開帳執行を考えると、同年の暮れには新しい拝殿が落成していたと推測される。

『八王子名勝志』（二八四九）の挿絵によると、入母屋造りで傾斜のある高い屋根は正面に唐破風付きの向拝を備え、四方に縁を巡らせた堂々たる建物であった（図版）。

文政期（一八一八〜一八三〇）に続々と上梓される地誌・紀行文に描写される伽藍の威容がこの頃整ったことになる。

薬王院文書に遺る「助入足登山帳」という記録によると、寛政一二年三月から文化三年（二八〇六）二月にかけて、約七年間に延べ一、二五二名の村人が手伝いに登山している。特に文化元年は二五日間、翌年は二四日間と集中して人足に出してお

「おことわり 本連載では史料の引用について、適宜読みやすく原文に手を加えています。」

り、工事が盛りであった

《参考文献》前島康彦校訂「武野遊草」（武蔵野）六二〜一、一九八四

高尾山にはタイ王国・王室より授けられた、大聖釈尊の真身骨を奉安している仏舎利塔があります。そしてその周りを囲むように建立された百観音お砂踏霊場がございます。

御信徒各位には、釈尊との御勝縁を結ばれますよう、仏舎利塔内に結縁牌懸仏（かけぼとけ）をご納仏されることをお勧め申し上げます。

この結縁牌懸仏は、夫々のご家族の先祖代々供養の為に、あるいは講中、参拝団の物故者慰霊の為に、お釈迦様と御信徒の皆様との尊いご結縁のしるしとして、霊名あるいは施主のご芳名を刻み、仏舎利塔内壁面に奉安し、大聖釈尊の聖骨と共に幾久しく供養されるものであります。

高尾山仏舎利塔 結縁牌懸仏のおすすめ



尚、お申し込みの方には「御納仏回向之証」をお授け致します。
(左の写真)



御納仏冥加料
一体 拾万円也

秋 蟬 (2)
緑 美 的 肢 体
透 明 的 翅 膀
地 上 数 日 唱
土 中 六 年 行

閑かきや
今年最後の
蟬の声
厚木市 荒井 一雄

無色透明の羽に
美しき緑の肢体…
土中にて六年間の
苦行・難行の末、
煩惱より解脱し大悟の上
地上にて二週間の命を全う…
法師んツクツク、
法師んツクツク…



東京多摩教区智山青年会研修会 当山貫首記念法話

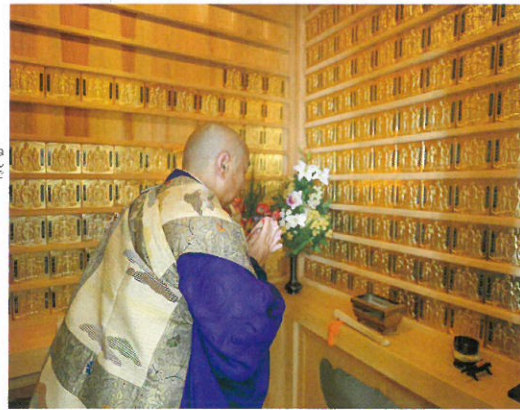
九月三日、八王子市内の八王子エルシイにおいて、東京多摩教区智山青年会が主催する研修会が行われました。

研修会では佐藤貫首が講師を務め、本年で誕生千二百五十年を迎えた弘法大師様について、出席された青年僧に向けて記念法話が行われました。

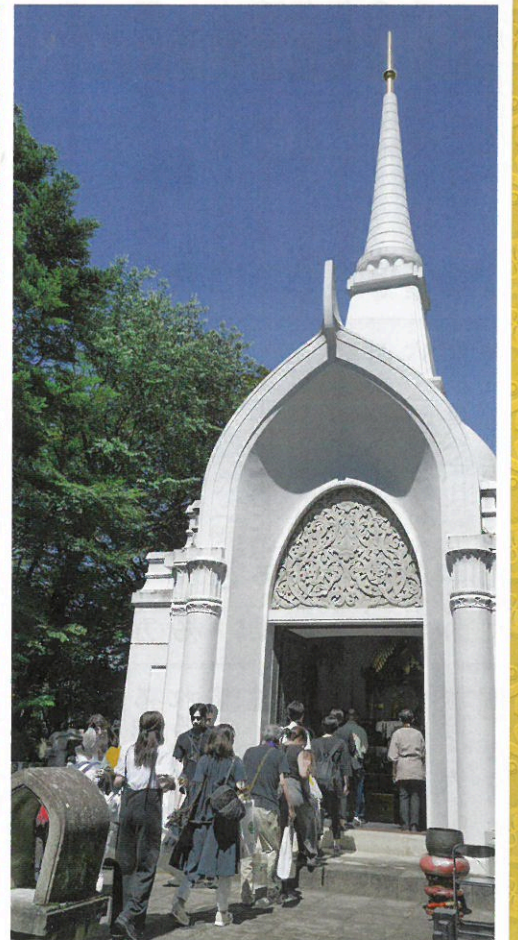
お釈迦様との尊い御縁を願って 仏舎利奉安塔懸仏総供養法要厳修 (九月十二日)



佐藤貫首により酒水加持が行われる



懸仏を懸るに供養する



仏舎利塔内を参拝する奉納者の皆様

結縁牌懸仏新規奉納者御芳名

- 川越市 小野澤正子 市川市 小林 幸子
- 練馬区 梁瀬 如可 足立区 王 炯菜
- 品川区 伊藤 誠規 (順不同・敬称略)
- 足利市 田野 榮一



法要に先立ち法話が行われた

観音菩薩の宗教

70

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

如意輪観音（その8）

前号で述べたように、日本で馴染み深い一面六臂の如意輪観音の図像は、『高雄曼荼羅』の胎藏曼荼羅が最古の作例とされている。

胎藏曼荼羅は具名を大慈悲胎藏生曼荼羅または大悲胎藏曼荼羅と称し、基本的には『大毘盧遮那成仏神変加持経』すなわち『大日経』の所説を图示したものである。大毘盧遮那を漢訳すれば大日如来となる。胎藏はサンスクリット語でガルバ・コーシャ (Garbhakosa) とい、ガルバは子宮、コーシャは蔵を意味する。二語合わせた胎藏は母親の子宮が包摂する世界をいう。大日如来の慈悲をガルバすなわち子宮に喩え、母が子を守り育むさまを指す。母胎にいる時の胎児は外部からのあらゆる攻撃から護られ、すべてを母性に委ねて安心して住することができるからである。毘盧遮那仏の慈悲を言葉で説いたのが『大日経』、それを图示したものが胎藏曼荼羅とされる。日本では真言宗や天台宗が金剛界曼荼羅とともに胎藏曼荼羅を両部の曼荼羅、もしくは両界曼荼羅とセットで重視したため、胎藏曼荼羅にも金剛界と同様、「界」をつけて胎藏界曼荼羅と呼ぶようになった。しかしながら、『大日経』所説の曼荼羅やチベット系の胎藏マンダラの呼称には界 (dharma) は付されていない。両者を区別して、日本の両界曼荼羅

の一つとしての胎藏界曼荼羅のみに「界」を付け、他の胎藏系の曼荼羅には付けない研究者もいる(田中公明『両界曼荼羅の仏たち』春秋社、二〇一七年、五頁)。ここでは本来の名称に基づき、一律に胎藏曼荼羅と記すことにした。

『大日経』は第一章の「入真言住心品」で教相、すなわち密教の哲学的な根拠を説き、第二章以下で事相、すなわち密教の実践的な修法を説く。ことに第二章の「入曼荼羅具縁真言品」、略名「具縁品」では曼荼羅の描き方を述べている。「具縁品」のチベット語訳は「マンダラを建立する真言の蔵 (dkyil khor tu dgong hai sangags kyidzod)」とあり、漢訳名より内容が明瞭である。ただし『高雄曼荼羅』をはじめ、こんにち日本



胎藏界曼荼羅(両界曼荼羅のうち)。鎌倉時代13世紀。奈良国立博物館蔵。
https://colbase.nich.go.jp/collection_items/narahaku/889-1?locale=ja
中央の中台八葉院の向かって左に3×7で二十一尊を描いているのが蓮華部院。

に伝来する胎藏曼荼羅は、「具縁品」の記述のみでは描くことができない。上に「基本的には『大日経』の所説を图示したと述べた所以である。「具縁品」の指示するところによれば、胎藏曼荼羅の中央に蓮華をかたどつた中台八葉院を描き、その中央に毘盧遮那仏、すなわち大日如来を鎮座せしめる。われわれが親しむメルカトル図法の地図が上を北とするのと異り、胎藏曼荼羅では上を東とする。これにより中台八葉院の向かって左が北となり、そこに蓮華部院と

に伝来する胎藏曼荼羅は、「具縁品」の記述のみでは描くことができない。上に「基本的には『大日経』の所説を图示したと述べた所以である。「具縁品」の指示するところによれば、胎藏曼荼羅の中央に蓮華をかたどつた中台八葉院を描き、その中央に毘盧遮那仏、すなわち大日如来を鎮座せしめる。われわれが親しむメルカトル図法の地図が上を北とするのと異り、胎藏曼荼羅では上を東とする。これにより中台八葉院の向かって左が北となり、そこに蓮華部院と

名付けられた一區画が置かれる。『高雄曼荼羅』の蓮華部院には横に三尊、縦に七尊を並べて二十一尊が描かれている。如意輪観音はその中央に安置され、蓮華部院の主尊たることを示すがごとしである。しかしながら「具縁品」に如意輪観音の名は見えず、それに関する指示もない。仏教美術研究者たちによれば、胎藏曼荼羅が「具縁品」にもとづきつつも、他の所説や信仰を取り込み、描かれる尊格を多様化していったと指摘されている(例えば、

森雅秀「両界曼荼羅の世界」『真言密教の新たな展開』高野山大学選書刊行会、二〇〇六年、八七頁。田中公明、前掲書、四二頁)。

如意輪観音を含む多様な尊格を描く『高雄曼荼羅』などの原図曼荼羅に対し、その蓮華部院の根拠となった「具縁品」にはわずかに七尊しか説かれていなかった。善無畏・一行が共訳した漢訳とチベット語訳は、概ね同様の内容を伝えている。チベット語訳『大日経』は和訳を含め多くの研究があるが、以下では仏教学者の北村太道による和訳(『藏文和訳―大日経』『大日経』系密教原典研究会刊、起心書房、二〇二〇年、二七―二八頁)から当該箇所を引用し、画像化以前の蓮華部院の姿を見ることにする。なお、原文のままだと分かりにくいので、各尊格の前に筆者が便宜上番号を示した。また、() 内の語は原文における言い

換え、() は北村氏の補訳で、ルビは筆者が振つたものである。

〔1〕救世者(毘盧遮那仏)の北方に耐苦(勤勇)の観自在が白蓮華に坐す。「色は」螺貝や軍那華や月に等しい。頭頂に無量光が安住され、顔は少しく微笑している者を描く。(2) その右に女尊の有徳にして畏怖を除かれる大名稱の多羅(「解脫母」、青白にして雑色身、若年の女の容姿、合掌して青蓮華を持ち、光明などで普く囲まれ、白衣を着る者を描く。(3) 左に毘俱胝(Bhiktu)女尊、その真言鬘(数珠)を手に持ち、三目にして頂鬘を具し、色は白、白と黄と赤などの光明に囲まれる者を描く。(4) 毘俱胝の近くには大勢至が手に蓮華を持ち、大慈愛の白衣を着、光明などで囲まれる勤勇を描くべきであり、その蓮華は未敷である。(5) 具慧者はその前に耶輸陀羅(Yasodhara)、黄金色

の如きを具し、一切の諸飾で飾られ、左手でpriyanguの鋭意の穂を持つ者を描く。(6) 多羅の付近に具慧者は白衣(Pandaravasinī)、頂鬘を具し、白衣を着、手に蓮華を持つ者を描く。(7) その下に、真言行者は大力明王を、太陽が昇るが如き光彩、白蓮華で嚴飾し、鬘鬘を具し、凶悪にして毛など獅子の如くに坐す者で、観自在の慧を具する馬頭と称される者を描く」

以上から尊名のみ抽出すると、(1) 観自在菩薩、(2) 多羅菩薩、(3) 毘俱胝、(4) 大勢至菩薩、(5) 耶輸陀羅、(6) 白衣観音菩薩、(7) 馬頭観音菩薩となる。これら七尊はすべて観音菩薩と関係有し、ために蓮華部院の中に描かれる。以下では、インドの密教学者ブツダグヒヤ(Buddha sutra)による『大日経』の注釈(北村太道訳『全訳ブツダグヒヤ大日経広釈』『大日経』系密教原

典研究会刊、起心書房、二〇二〇年、一〇五―一〇九頁)により、これらの尊格と観音菩薩との関係を見てみよう。まず、(1) は蓮華部院の主尊ともいふべき観音菩薩である。ここから軍那華はkundaの音写で白い蓮華を指す。(2) 多羅菩薩は本連載において長く考察した(「観音菩薩の宗教」⑪、⑬、⑰)。ブツダグヒヤは多羅菩薩について、観音菩薩がすべての有情を救いきれず、大悲力によって流した涙から生じたとしている。チベット語訳では「若年の女」とあるが、漢訳では「中年の女人」とある。既述のごとく、チベット・モンゴルで流行した『二十一ターラーへの讚』では「十六歳の美少女」と説かれる(拙稿「観音菩薩の宗教」⑩)。(3) 毘俱胝(ブリクティ)は、ブツダグヒヤによれば「観自在の眉間の内から」出生した女尊で、その語源は「眉(bhru)」を「し

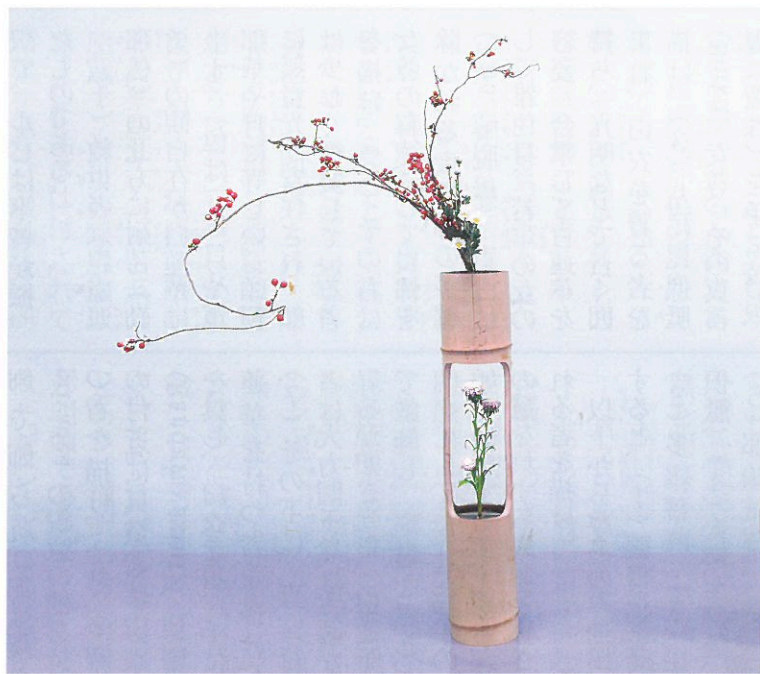
かめ(Karu)した時に出生したから」と説明される。(4) 大勢至菩薩は『無量壽経』などが説くように、阿弥陀如来の脇侍として観音菩薩とともに尊崇され造像されてきた。観音菩薩が弥陀の慈悲を勢至菩薩が弥陀の智慧を表すとされる。(5) 耶輸陀羅(ヤシヨーダラ)はブツダが出家前に妃とした女性で、後に観音菩薩の化身とされるようになった(田中公明、前掲書、四二頁)。Priyanguとはセンダン科の植物。(6) 白衣観音はブツダグヒヤによれば女尊とされ、漢訳「具縁品」では白処尊とされる。(7) 馬頭観音はすでに本連載で述べたように恐ろしい相貌により破邪を旨とする忿怒尊である(拙稿「観音菩薩の宗教」⑫)。ブツダグヒヤは馬頭の名称について、「法に貫通する智慧が駿馬に似ていること」、有情利益の所作の速疾性が馬(haya)に似ていることからしる。

いけばなの心 ④④

華道教授 佐藤 宗明

いよいよ秋らしくなってきました。夏に咲く花は力強く美しいですが、秋に咲く花も艶やかなものから、静けさや侘しさを感ずるものまで色々あり、良いものです。

今回は、秋の花材を使用した生花正風体のご紹介です。花器は昔から伝わる『二重切』という花器です。上の重には実が美しいツルウメモドキと小菊、下の中には美しい色のアスターを挿しています。ツルウメモドキは『つる』という名前の通り、強く上に伸び立つというより、横に伸び、下に垂れていくような風情の植物です。そのため、このような背の高い花器や、釣ったり掛けたりする花器で生けることが許されています。今回の枝は強い曲がりがあったの



花材…ツルウメモドキ、小菊、アスター

で、それを活かして見どころにしてみました。上の重をダイナミックにした分、下の重は楚々とした感じで窓の中に収めて



います。『二重切』の生花は池坊につたわる生花の中でも遊び心がある生け方です。季節のお花を手にしてその良さを生かそうと考える時間は非常に心落ち着く時間になります。

いろは 天狗の落し文 ③③

心に張りをも
心に余裕
心豊かに
生きないと

人の心は緊張しすぎていても、緩みすぎていてもいけません。何事にも極端な状態ではなく、バランスが整っていることが重要なことなのです。

常に心を張り詰めていても、持続力には限界があります。また、リラックスイすぎても、緊張感を無くし、いざという時に素早く動けないでしょう。仕事の時は仕事、遊びの時は遊び、というように、公私のけじめを忘れずに行きましょう。

「心に余裕を持つ」と言っても簡単なことではありませんが、自分に自信を持ち、適度にストレス発散して、前向きに考えることを心掛けてみましょう。

当山貫首宗機顧問会出席

九月八日(金)

九月八日、佐藤貫首は総本山智積院において開催された智山派の宗務運営について議論するため、宗機顧問会に出席致しました。

当日は智積院において大勢の僧侶の出迎えを受けて午後一時に登壇し、会場である宸殿に移動され、午後二時より宗機顧問会に臨まれしました。佐藤貫首は今回宗機顧問に再任され、布施浄慧下より辞令を賜りました。



薬王院インスタグラム紹介

薬王院では、インスタグラムを用いて各種行事や四季が移ろいゆく風景を、写真や動画で御信徒様にお届けしております。

これらも様々な写真や動画を沢山アップしていきますので是非ともフォローをお願い致します。

下記QRコードかURLから検索ができます。



TAKAOSAN_YAKUOIN

instagram.com/takaosan_yakuoin/

聖天堂開扉法要

九月九日(土)～十日(日)



三社寺合同 全国災害復興祈願祭

九月十四日(木)

北口本宮富士浅間神社と大山阿夫利神社、高尾山薬王院の三社寺は北口本宮富士浅間神社にて、「三社寺合同全国災害復興祈願祭」を行いました。この法要は平成二十三年に発生した東日本大震災を契機として始まり、今では国家安穩・国土安穩を祈るため毎年営まれており、三社寺による輪番制となっております。富士浅間神社の上文司宮司斎主のもと行われた祈願祭では、祝詞の奏上が行われる神仏習合の祈りの中、被災地復興を祈る静かな一時となりました。



九月九日、十日の二日間、普段は内部が公開されていない聖天堂において、御信徒様へ堂内を公開する、開扉法要が執り行われました。

このお堂には、薬王院の御本尊・飯縄大権現様の五相合体の御姿の一つである、大聖歡喜天(和合歡喜天)様がお祀りされております。

当日は佐藤貫首をはじめめとした山内の僧侶が堂内に並び、一心に祈りを捧げられました。

高尾山 季節散歩

和風月名
神無月
「かんなづき」

「神無月」の由来は諸説ありま
す。有力な仮説は、「無」の文字
は「の」を意味する「な」であ
るため「神の月」が語源となり
ます。
後に、全国の神々が出雲に集
まり他の地では神がいなくなるた
め「神無月」になったという俗説
が広まりました。

今月の風物詩
十三夜

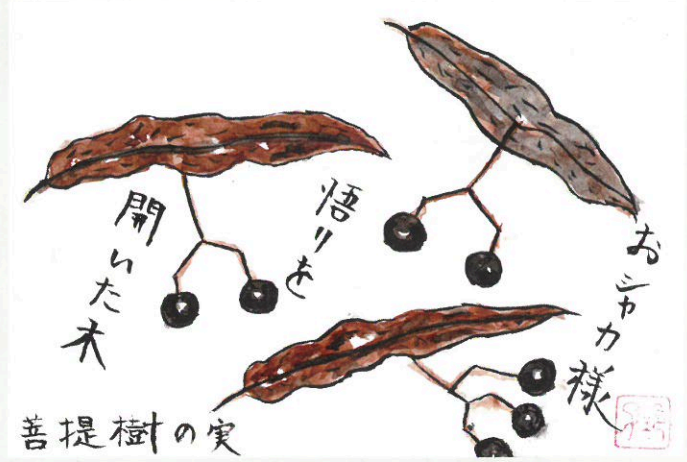
旧暦の九月十三日頃の月、十
三夜は満月には少し欠ける月で、
「中秋の名月」と呼ばれる十五夜
の次に美しいとされています。
十五夜と十三夜を合わせて
「二夜の月」とよばれております。
また、片方の月だけを見ること
は「片月見」等と呼ばれ縁起が
悪いとされていました。

七五三身上安全祈願

「七五三」とは、皆様方の可愛いお子様が、これ
から健康にすくすく育ちます様にと、身上安全の
願いを込めて寺社にお参りするという行事です。
高尾山でも御本尊・飯縄大権現様の御加護を
願い、毎年多くのお子様がお参りに訪れておりま
す。十月～十一月の間、山上「御護摩受付所」にて、
「七五三祝い子育て祈祷」を受け付けております。
どうぞ皆様で御来山なされますよう、ご案内申
し上げます。

健康登山者投稿作品 季節の絵手紙「菩提樹の実」

八王子市 栃谷怜子 様



一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

二十一 苦さを知り甘さを知る

「苦勞は買ってでもせよ」という言葉にありますように、若い
時に安易な道を選ばずに、大変だが貴重な経験を積む
ことは大切なことです。つらい状況にあるからこそ、若い
経験だと自分を励まし、将来に備えてみましょう。

京王電鉄株式会社来山

九月五日(火)



佐藤貫首と記念撮影する紅村会長(右)
都村社長(左から2人目)船江社長(左)

京王電鉄株式会社の紅村康会長と
都村智史社長、高尾登山電鉄株式会
社の船江栄次社長御一行が初秋の高尾
山を訪れました。
一行は当山書院にて佐藤貫首と親し
く歓談後、無事に下山されました。

おはなし散歩道 神無月の茶屋

町田市 大澤桃代

山の茶屋に行く道は
二通りある。駅からバ
ス終点まで乗り山を登
る道と、駅より小一時
間川沿いの遊歩道を行
き百七段の階段を上る
道だ。紅葉の時期、電
車が着くたび駅は人で
溢れ、「あかね茶屋」は
目の回る忙しきになる。
茶屋は元々祖母が営
んでいた。あたしが引
き継いで三十年になる。

夫が亡くなり、厨房
は娘の「かずら」が担当
している。「おーい、あ
かねちゃん」とお客様が
呼ぶ。あたしは「はい、
ただいま」と返事をする。
還暦過ぎでも、茶屋で
のあたしは「あかねちゃ
ん」で、朝から息を切ら
せ「おにぎり」と「けん
ちん汁」を運んでいる。
そわそわ落ち着かない
のは満席のお客様のせい

だけではない。今日は特
別な日なのだ。
三時過ぎ、のれんを外
しに外に出ると、スーツ
姿の男が遊歩道の橋を
渡ってきた。
——時間どおりだが、
と思い胸をなで下ろす。
「どうも、こんだ山ん中
へ」男に頭を下げ、店の
中へ案内する。「かずら」
はいつ着替えたのか、桃
色の服を着て男を「誠
ちゃん」と呼んでいる。
男は改めて「勝俣誠
二」と名乗り、「かずら
と結婚したい」と頭を
下げた。あたしは頷く。
文句のあるう筈はない。
ここ一年、誠ちゃん
娘目当てに、茶屋に通っ
ていたのだ。
かずらは学校を出て、
都内で働いていたが、心
を病んで戻ってきた。
あの頃は、夫も健在で、

蕎麦も打っていた。そし
て、娘は蕎麦打ちを習い
三年後にお客様に出せる
腕になった。だが、夫が
亡くなり、蕎麦まで手が
回らなくなったのだ。
「娘はずっとここで働き
たいと……」あたしがい
うと、「はい。二人で麓
に住みます」と、誠ちゃ
ん。「リモートの仕事が
ほとんどですから」と。
誠ちゃんはウエブデザ
イナーで、二人はすでに
アパートを決めたよう
だ。「娘の病気はご承知
ですよ」と念を押す
と、二人は顔を見合わ
せ頷いた。そして「この
茶屋にいれば心配ない」
と笑う。誠ちゃんの笑
顔が夫のそれと重なる。
「残り物で悪いけど、け
んちん汁食えますか？」
と聞くと、誠ちゃんの顔
がいつそうほころぶ。や
はり、お昼抜きで来たそ
うだ。ありつたけのご飯
でおにぎりを作り、けん
ちん汁をそえる。母も
祖母も、昔あたしと同じ
気持ちになったのだろう。

誠ちゃんが食べている
間、あたしは身支度を
する。ようやく祖母の着
物が役に立った。
「お母さん。和服じゃな
い」娘がいうと、「いや
あ、素敵です」と誠
ちゃん。「あたしの祖母
ちゃんを着物で働いてた
んよ」とあたしはいう。
これから、遊歩道を
下車に乗る。両家の顔
合わせをするのだ。この
三人と誠ちゃんの家族、
あたしの両親が集う。
祖母が腰を痛め、店を
閉めるといつた時、両親
は「それがいい」と賛成し
た。でも、あたしは「嫌だ
！」と、半ば
押しかけるよ
うに「あかね
茶屋」で働い
た。かずらを
母に預けて。
祖母が亡く
なつてもやめ
なかつた。
父は役場勤
め、母は主婦。

あたしも主婦で、夫は農
協の職員だった。
——あかね、つて名を
つけた時から、茶屋を継
ぐことは決まっていたが、
母がいつたことがある。
結局、夫もこの茶屋で蕎
麦を打ったのだ。
誠ちゃんも同じかもし
れない。
——同じだが、
と、祖母の声が聞こえ
た気がする。
三人で遊歩道から山
を臨む。山があかねに、
かずらに染まっていた。
(挿し絵・小出 茂)





登山だより

十一月行事日程

一日〜七日

聖天秘供(聖天堂)

六日

御詠歌勉強会

七日、十九日

(十時山麓不動院)
弁天秘供(御本社)

八日

仏舍利詣り(仏舍利塔)

二十五日

月例写経会

二十六日

(十三時山麓不動院)

二十八日

高尾山とんとんむかし

「語り部の会」

(十二時半山麓不動院)

奥の院開扉供養

(十時奥之院)

二十一日

飯縄様御縁日

神徳報謝百味飲食供

(九時大本堂)

☆神徳報謝百味飲食供

高尾山御本尊飯縄大権

現様の日々の御加護に感謝

し、沢山の御供物を捧げて

御本尊様威光倍增の為、御

供養申し上げる法要です。

皆様の御志納を受け付

けておりますので、ご希望

の方は大本堂までお申し出

下さい。尚、法要終了後

に百味のお札を授与致しま

す。

毎月二十一日午前九時勤修

御志納金 一口三千円以上



毎日の
お護摩奉修時間

午前9時30分
// 11時00分

午後0時30分
// 2時00分
// 3時30分

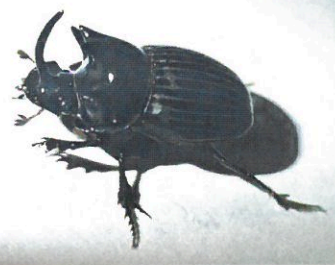
ご講中・団体等
御相談下さい。

高尾山の昆虫

ゴホンツノダイコクコガネ

168

日本最大のフン虫にダイコクコガネがいて、その大きき風格、そして造型が秀逸で正しく名虫だと思えます。



残念ながら高尾山には生息していませんが、別種のかなり小型で弟分のようなゴホンツノダイコク(ゴホンダイコク)が

いてもおかしくないとい前から思っていました。長年高尾山の昆虫を探索しています私ですが、

出会ったことはなく、他の人からの報告も聞いたことがありませんでした。

今夏は相当久しぶりになりますが、高尾山のナイターにでかけました。

灯火はLEDに変えられて虫の飛来は、かつての十分の一くらいに減ってしまい、灯火に夥しい虫が

群がる光景は、今は昔の感があります。

ところが、ゴホンダイコクが見られたのは驚きで、それも多数の個体が灯火の傍に鎮座していたのはびっくりです。小型種ながらその造型は素晴らしく、高尾山で確認できたことは収穫でした。

考えれば多数の野生動物が生息してサル園もありますので、本種がいることは不思議ではなく、出会えたことをとても嬉しく感じています。

(撮影・文松島 孝)

高尾山報助成金志納者
御芳名(順不同・敬称略)

八王子市 徳田 宏晴

// 石井 忠明

足立区 中山 恵司

八王子市 吉田 利江

太田市 一ノ瀬 勝男

足立区 鈴木 智恵子

八王子市 江本 直喜

富里市 森 照森

新座市 彰山 粧麗

八王子市 安藤 好

大田区 田中 良典

小平市 関 道雄

立川市 石田 正一

杉並区 齊藤 一誠

府中市 菊池 ヨシ

八王子市 大山 泰

高尾山健康登山者一同

高尾山薬王院ホームページ
<https://www.takaosan.or.jp>

下記のQRコード
から高尾山薬王院
のホームページに
アクセスできます



発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 犬山秀康
編集人 菅井倫浩
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円